

信なき中間派の自己救済の策に利用せんとする統一運動に反対し、斷乎たる態度をもつて大右翼結成の旗の下に戦線の整理統一を圖つた。戦線統一の聲のみ大にした無産陣容の分裂から分裂のより一層を極めた本年度に於て、獨り堂々たる態度をもつて我黨のみが統一の成果をおさめ得たことは如何にその運動方針の正しかりしかを裏書きせるものであらう。

大會直後、横須賀市を中心とする社會進黨の合同に續き弘前自由黨の合同、七月に到つて、中國地方の三大地方政黨の合同をみる事が出来た。

十二月十四日 合同 社會進黨

一月十五日 同 弘前自由黨

七月廿一日 同 獨立民衆黨

七月廿二日 同 藝南民衆黨

七月廿三日 同 徳山民衆黨

又一方に於て經濟團體の整理統一により、即政治戦線の統一と擴大になつた二、三を引例するならば、三月上旬、日勞黨所屬たりし福島縣、平町を中心とする日本坑夫組合常盤聯合會が重さなる争議の失敗から中間派の浮遊的指導精神にいやけ

をさし、同組合及黨を脱退すると同時に、日本勞働總同盟に参加し、八月には農民、市民層に擴大した組織を確立して我黨盤城支部を結成した。

續いて北九州では、例の七黨合同の内幕に反感を抱き合同の最後まで反対の意志表示をして來た大衆黨田川郡、嘉穂郡地方の同黨各支部は六月廿三日、我黨全國議員大會會場に電報をもつて大衆黨脱黨、我黨入黨の申込みあり、かくして後一ヶ月経過せずして大衆黨系日本坑夫組合の金城鐵壁たる筑豊炭坑地は、我九州聯合會との共力のもとに我黨旗をもつて完全につ、むことが出来た。

次に我黨本年度に於ける農村への進出を特記しなければならぬ。

七黨合同より成る日本大衆黨が結黨後僅か六ヶ月の存在にして脱退、除名の騒ぎで再び四分五裂になりきつた五月中旬、舊日農黨の全日本農民組合は、一、社會民衆黨を支持する。二、日本農民總同盟に合同を提議する。と云ふ決議を我黨に持ちし、かくして自己救済策を立てんとした。但し我黨は階級的に指彈されてゐる人物の統制、指導下にある組合の支持は斷然拒絕する旨を以て答へ

以て我黨各支部聯合會、支部は積極的修正々々と取ひ取ることが最も正しいとし、山梨縣、群馬縣、山形縣地方に於ては漸次戦によつて獲得し、特に山梨に到つては全縣統一の觀さえる。一方今夏にいたり栃木、北海道、と特殊の地方に於ける全日本農民組合地方聯合會と日本農民總同盟の合同により同地方のいちぢるしき農民組織の擴大となり、同時に我黨の支部又は支部聯合會の結成にいたつてゐる。

尙地方支部陣容の充實に意を用ひ、新潟、高知九州、埼玉、青森等の地方に聯合會組織を持ち得た外、支部結成數四十六、黨員一萬九千有餘を加へて茲に我黨は十二支部聯合會百二十八支部、二百數十分會、黨員六百六千有餘を數ふるに至つた。此の飛躍的な擴大の過程こそ全國の同志の涙ぐましく奮闘なければならぬ。

本年度結成の支部及び聯合會

年月日 支部聯合會 支部名
 三年十二月 九州支部聯合會 千葉東葛支部

埼玉支部聯合會
 大阪支部聯合會

四年一月 伏見支部
 同 二月 瀬戸支部
 同 三月 弘前支部
 南區支部
 土佐郡支部
 足柄下郡支部

同 四月 山梨支部
 同 五月 網走支部
 同 六月 青森縣支部聯合會
 新海支部
 同西蒲原支部
 會津支部
 伊達郡第一支部

同 七月 淡路支部
 神田支部
 仕鹿支部
 刈田支部
 足利支部
 吳地方支部